



**any MEETUP**

ボーダレスな世界が、ワタシをつくる

**2024 SUMMER EVENT REPORT**

# 目次

イベント概要	3
実施実績	4
プログラム	5
TALK! ~ これが私のボーダレス ~	6
パネルディスカッション ~ 自由な世界でどう生きるか ~	7
Award	10
運営からの報告	11
Cross Leadership 大交流会	12
参加者の声	13
協賛のご紹介	14
当日会場の様子・写真ライブラリー	15

## 運営・主催・協賛



# OVER20&Company.

20代をつながりとコミュニケーションでエンパワーメントし、誰もが生き生きと輝く世界を創造する

設立:2018年5月

本社:東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー27階

事業:次世代成長支援事業

代表:糸井達哉

■ PROJECT anyを共創する法人エニーマイトのご紹介 ■



PROPERTY DATA BANK



Daiichi-Sankyo

tssテレビ新広島

Mental  
Support  
institute inc.

Avantia  
監査法人アヴァンティア

# any MEETUP EVENT 2024 SUMMER

## ボーダレスな世界が、ワタシをつくる

2022年6月1日に公式リリースした「プロジェクト・エニー ～ 社会人 6.9 人で 1 人の若者を支えられる時代の日本の未来共創プロジェクト ～」。半期に 1 度、エニー生とエニーメイトが出会えるオフラインイベントを開催してきましたが、第 5 回目のテーマは「ボーダレスな世界が、ワタシをつくる」。ボーダーのない世界を「海」で表現し、社会や他者からの評価軸ではなく、自分の言葉で自身を表現する積極的なコミュニケーションを促した本イベントは、過去一番の熱量に包まれました。

## イベント概要

### ■ 開催日時・タイムスケジュール

2024年8月23日(金) 19:00～21:00(開場18:30)

19:00 TALK! ～これが私のボーダレス vol.1 ～

19:05 Award

19:10 運営からの報告

19:20 TALK! ～これが私のボーダレス vol.2 ～

19:25 パネルディスカッション | 自由な世界でどう生きるか

19:45 TALK! ～これが私のボーダレス vol.3 ～

19:50 Cross Leadership 大交流会

### ■ 会場

KDDI株式会社 / KDDI DIGITAL GATE

東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング西棟3階



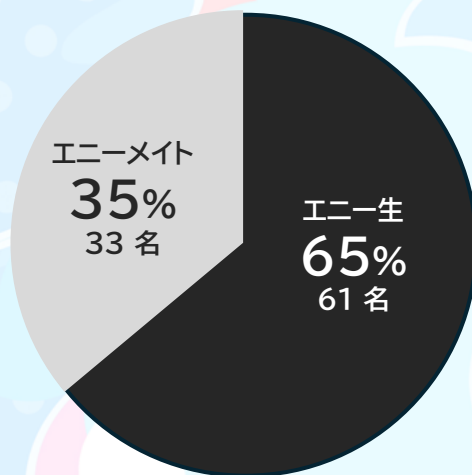
# 実施実績



## ■ 来場者数

# 94名

エニー生61名(一部運営メンバ)、エニーメイト33名(一部ゲスト)



## ■ 来場者属性

エニー生

●大学別(在籍数の多い順)

慶應義塾大学、一橋大学、早稲田大学、上智大学、東京大学、成城大学、情報経営イノベーション、筑波大学、大阪大学大学院、京都大学大学院、京都大学、中央大学 その他

## ■ 来場者満足度

# 6.6/7

# コンテンツ

---

## TALK! ～これが私のボーダレス～

エニー生を代表して3名が、エニーの必修プログラム「SEARCH MYSELF～EQトレーニング～」を修了して明確になった自身について、「ボーダレス」と重ねて共有するスピーチプログラム。

## パネルディスカッション ～自由な世界でどう生きるか～

境界を持つ役割と制約、そしてボーダレスな視点をもたらす可能性について、株式会社OVER20&Company. より宮澤と、パネリスト2名のエニー生が意見を交わしました。

## Award

プロジェクト・エニーはエニーメイトと呼ばれるパートナーと共創していますが、特に貢献が顕著な個人エニーメイトを表彰しました。エニーの世界がさらに広がる熱のこもったスピーチがありました。

## 運営からの報告

2022年6月に始動したプロジェクト・エニーの成り立ちとこれからについて、株式会社OVER20&Company.代表の糸井と石堂が報告しました。

## Cross Leadership 大交流会

エニー生とエニーメイトの皆さまが世代と立場を超えて交流します。エニー生は人生の先輩から学び、エニーメイトの皆さまは次世代人材から多様な価値観・キャリア観などを学びます。採用や営業とは関係のないフラットなコミュニティだからこそ得られる学びは参加者の皆さまにとっても唯一無二の機会になりました。



# TALK! ~これが私のボーダレス~

自分が何者かという確信が強い人をグッと集めて刺激しあい、さらに大きな影響力を持った次世代にして30歳で飛び立たせるプロジェクト・エニー。その始まりは「SEARCH MYSELF~EQトレーニング~」。今回も3名のエニー生を選抜し、「SEARCH MYSELF」で見つけた自身が大切にしている価値観やその醸成の経緯など人生ストーリーをスピーチしていただきます。以下各人スピーチの要約になります。



## 白 逸朝さん（筑波大学卒業 / 社会人2年目）

小学2年生から高校卒業まで中国・北京で過ごした白さん。中国では、自分の意見を大事にして、ストレートに相手に伝える文化があります。高校卒業後、日本に来た白さんは「空気を読む」ことに苦労します。白さんにとって「空気を読む」ことは、自分を隠して周りに合わせることでした。白さんは、いろんな価値観が混ざり合って、自分らしく生きていく方が新しいアイデアが生まれて面白いと言います。ありのままの自分を出して仲良くなった方は、深い信頼関係が結ばれるのではないかと、そんな気付きを伝えました。



## 笹川 夏希さん（産業能率大学）

「私には日本人としての帰属意識がありません。地球人としての意識があります」そんな笹川さんのスピーチは、人間とは本来矛盾した生き物であり、曖昧で不安定な存在だと言います。そこに初志貫徹した答えというものを、自分も自分に求めてしまい、他人や社会からも求められている気がする今の時代。個人が確立した答えを出すよりも、自分と違う他者や、その考えをどう扱って、それらと自分がどう幸せに生きていくか、そうした生存戦略を考える方が良いのではないかと伝えました。



## 徳永 宗太郎さん（東京大学）

「皆さんは、どんな時が一番幸せですか？」という徳永さんの問いからスピーチは始まりました。徳永さんにとって一番幸せを感じる時は、身近な誰かと一緒にいるときだと語ります。ところが、現代社会は、人間関係といった本質的な幸せよりも成長を追っているように感じ、また、自分の存在(社会的体裁や何をやる人かなど)を決めないとお金が稼げず生きていけない社会になっていると伝えます。徳永さんは「AかBという二元論ではなくあいまいな状態を楽しめる」ことが大事だとメッセージを伝えました。

## 感想(一部)

- ・ 御三方とも、ボーダレスという難しいテーマの下、自身の想いを乗せたスピーチになっていて、とても感銘を受けました。今回のテーマに真正面から立ち向かった御三方に対して、心から賛辞を送りたいと思います！（エニーメイト / 伊藤栄二）
- ・ 登壇者のそれぞれ方が違った境遇で、だからこそ生まれてくる価値観。そこから自分の言葉で話していたのが良かったです。（エニー生 / Y.A.）
- ・ それぞれのスピーチから、新しい視点を得て、視野が広がりました。みなさん緊張しながらも自分らしく堂々と話す姿に感動しました。（エニーメイト / 高橋洋子）
- ・ 3人それぞれの個性が良く表現されており、とても聞き応えがあるものだったと思います。（エニー生 / I.H.）

## パネルディスカッション

# 自由な世界でどう生きるか

エニー生であり 株式会社OVER20 & Company. 「OVER20 INITIATIVE OCEAN」の研究室長でもある宮澤優輝をホストとしたパネルディスカッション、「自由な世界でどう生きるか ーボーダレスの正体と実践ー」。境界を持つ役割と制約、そしてボーダレスな視点をもたらす可能性について、宮澤とパネリスト2名のエニー生が意見を交わしました。



### 宮澤 優輝

一橋大学 経営管理研究科 / OVER20 INITIATIVE OCEAN Director

OCEANの設計、データの収集や分析を通じて、次世代の属性、性格や行動特性、心理的状況などを研究し、レポートで発表。

一橋大学経営管理研究科に一年「飛び級」して進学。イノベーション・アントレプレナーシップ専攻。大学では複数の研究に参画し、『セイコーエプソン:革新的腕時計「スプリングドライブ」はいかに開発・事業化されたか』『文献サーベイ:カテゴリー形成過程としての革新現象』などの論文を投稿。その過程で、2023年度にトロントで開催された「Strategic Management Society 43rd Annual Conference」にて研究発表を行う。



### 藤野 浩明

慶應義塾大学 文学部

文学部で日本語学を学ぶ大学4年生。言語のほか、美学や文化・芸術などにも興味をもつ。過去にオーストラリア・イタリアでホームステイを経験し、来春からスタートアップに就職予定。言葉はボーダーでもありボーダレスでもあることから、言語学を学んでいて感じるがあります。ボーダレスを考えるにあたり、逆に「区切ること」についても話せたらと思います。



### 須貝 太一

ネバダ大学 政治学部

日本に9年間、アメリカに12年間在住。大学には、日本で言う医学部生として入学したが、気分が変わり、政治学部と国際関係学部を専攻して、経済学を副専攻。現在は大学を一年早めに卒業して、法律事務所とコンサルティングファームでインターンをしながらか日本のロースクール受験のために来日。

# 「ボーダーレス」とは

宮澤:まずは、「ボーダーレス」って何だと思いますか？

須貝:元々は物理的な境界を指していたと思うのですが、デジタル技術が発達して物事の境目が薄くなってきて、物理的な境界線から「認識」であったり、より啓蒙的な意味での境界線という意味に変わってきていると感じます。

藤野:ボーダーレスとは、いわゆる区切りや境界がなくなるという意味だと思います。

社会的なボーダーを認識したうえで自分の中でボーダーを再構築する、再解釈するというのがボーダーレスだと考えています。なので、自分の価値観や考えが軸となるという点で、今の時代に非常に大事だと感じます。

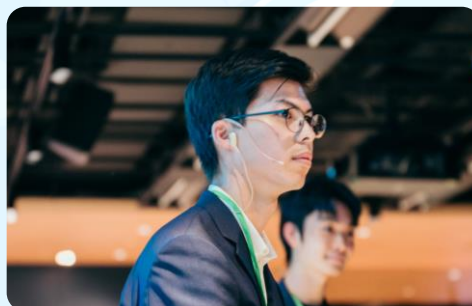
宮澤:ボーダーレスのポイントというのは、ボーダーがないことではなくて、ボーダーがなくなること、かつ、それがあったことを皆が覚えているという条件が揃って初めてボーダーレスというものだと考えています。なので、元々ボーダーがないものをボーダーレスとは誰も言わなく、ボーダーがあったものを意図的になくしたりしたものをボーダーレスと呼んでいますよ。そういう意味で、その差分の中で「良いものは何が無くなって」、「良いものが何が増えて」という比較が、そのボーダーレスの良し悪しみたいな議論と密接に関連していると考えています。

## ボーダーレスが進む中で感じる良い面

藤野:私は就職活動の時にボーダーをととても意識していました。ボーダーを意識しつつも自分で判断基準を作りながら選んだ結果、あるスタートアップへの就職を決めました。プロジェクト・エニーで「どういう人間でありたいか、どういう人間になりたいか」について考えた新しい基準によって、今の選択になりました。

宮澤:たしかに既定のボーダーをなくすことで、自分なりの新しいものが構築できる面は確かにあると思います。他方で、様々なキャリアを積んでいる須貝さんはどう考えますか？

須貝:ボーダーが薄れつつあると様々な分野が交錯していくので、従来は一貫性があると良いと言われていたと思うのですが、若者視点で言うと、挑戦がしやすいと感じます。私自身も、最初は医学部、入学3日前に経済学部へ編入。その後も2回学部を変更しています。一方で、ボーダーを乗り越えるときは非常に怖かったです。今は法律家になりたいと考えていますが、もともとビジネスやIT、社会分野についても興味・関心があるため、様々な分野で働ける仕事として今の選択を行いました。





## ボーダーレスな社会における個人の拠り所

清水(会場席より):私はボーダーを超えまくっています。社会人28年目になりますが、転職は13,4回しており、4年前に米国の大学院に入り今はドクター2年目です。ボーダーを超えてきた中で、まずは「ここにボーダーがあるな」という意識をすると「自分は道を外れるのかな」という恐怖心が出てきます。何度もやっていると「自分は何をやっているんだろう」となってきます。ただそれを重ねていく中で、自分が楽しいと思う仕事が見つかりました。ボーダーを超えていいのか超えないのかという意思決定をするときに、私は「Follow your gut. Feel your soul vibes. And listen carefully in your heart.」を大切に意思決定をしてきました。

宮澤:まさに拠り所が無くなる中でどう指針を打ち立てるか、は、「Follow your gut.」というのが一つの解としてあると感じます。お二人はどのようにボーダーをセットしてきましたか？

藤野:自分は高校まで社会の見えないルールに沿ってそのままやってきましたが、新しい自分の価値基準で選ぶ大切さに気づき、今は目的意識から逆算のような形でボーダーをセットし、意思決定に落とし込んでいます。

須貝:自分がボーダーを認識した中で、その外側を見てみたいなという感覚が自分にはありました。少し出でて面白そうだったら深入りしてみて、というように、常に色々なボーダーを見てみることで、多角的な視点を持つことに繋がっていますし、それらが重なって自分の面白い経験になったりするのかなと考えます。



(個人エンターテインメントの清水さん)



### 感想(一部)

- ・ とても興味深いディスカッションで、自分の内省にもつながり、とても良かったです。ファシリテーションも上手でしたね！(エンターテインメント / 高橋 洋子)
- ・ 難しいテーマですが、面白い意見が聞けました。またボーダーを超えて成長して行くんでしょうね(ゲスト / 三原 陽平)
- ・ 非常に抽象度の高い概念に対して、わかりやすく言語化されていました。実体験という点で劣る部分を聴講されているエンターテインメントから引き出しており、更に具体性が高まったように思います。ボーダレスの世界観はそれを体現しようとする方が、そうしたくない人たちへどう関わるかが肝要と考えますので、今後の取り組みに期待です(エンターテインメント / 栗原和也)
- ・ 1つの事柄について、他者の意見を複数聞きながら、自分の考え方をより深めていくことができ、多くの気づきを一度に得られて勉強になった(エンターテインメント / M.S.)
- ・ ボーダーが元々無かったら、ボーダレスという認識はなく、元々あったところから壊して初めてボーダレスというものが生まれると改めて認識できた。様々なことに挑戦してボーダーを知ることが大切だと学びました(エンターテインメント / Y.A.)
- ・ 限られた時間の中、様々な観点からテーマに迫ろうとする御三方の真摯さに敬意を抱きました(エンターテインメント / 伊藤栄二)

# Award

プロジェクト・エニーでは、次世代の成長を支援する文化を普及させるために、多くの社会人や法人が参画しています。次世代成長を加速させるために、この1年で特に貢献が顕著な個人エニーメイトを表彰しました。



下記 QR コードを読み取って頂くと、伊藤様、永田様のインタビュー記事をお読みいただけます(エニー公式サイト)



## 伊藤 栄二

伊藤氏がエニーメイトとして参画したのは、20代という人生において最も重要ともいべき年代を成長支援しており、かつ個人も参加できるという仕組みに大変共感したからだと話します。伊藤氏は、海外での経験の中で「アイデンティティ」の重要性を理解したそうですが、日本にいとその重要性は埋没していくという危機感についてもお話しいただきました。



## 永田 弘道

「日本に眠っている2,000兆円以上のタンス預金、いったい誰が持っていると思いますか？」そんな問いかけから始まった永田氏のスピーチ。永田氏と同年代以上の社会人が、もっと次世代に資本と経験を渡していくべきだと語ります。今後さらにエニーを支援していきたいと熱のこもったメッセージをいただきました。



## エニーメイトへの印象について感想(一部)

- ・ 若者を積極的に支援しようという意識がある皆さんが多く、自分もそのような社会人になりたいと強く思いました(エニー生 / H.I.)
- ・ それぞれの想いがあり、素晴らしい取組みだと思えます(ゲスト / 田中伸生)
- ・ エニー生が未来を作る、ということに確信を持っている気がする。だから支えたい、と(エニーメイト / 清水元承)
- ・ 人生の先輩だからこそ、20代という貴重な時間の意義を実感されていた。当事者意識が高く、次世代を作りたいという社会への関心が高い人が多かった(エニー生 / M.S.)

下記 QR コードを読み取って頂くと  
各種プランをご覧いただけます



# 運営からの報告

運営会社である株式会社OVER20&Company. よりエニー生、エニーメイトの皆さまに向け、エニーの成り立ちから今後のVision (anysion) についてお話させていただきました。

## 次世代を社会で成長させる エニーの成り立ち・今後について

2022年に始まった、次世代を民間共創で成長支援するプロジェクト・エニーの成り立ちと取組みについてご紹介しました。

- ・経産省の公式レポートで指摘された「若者への教育投資を最優先事項とすること」と「公的役割の民への移管・分散」。この二つにアプローチしているのがプロジェクト・エニーである
- ・上記に対して、法人エニーメイトと取り組んでいる長期プロジェクトや、今後の取組みとして、社会とのより立体的な交流を生み出す拠点となる「エニーステーション」構想、トリプルボトムラインに関する世代を超えたプロジェクト始動について報告

(下記左より)

石堂 里佳 ファウンダー / ブランディング戦略責任者

糸井 達哉 代表取締役 / エニー事業責任者



## 感想(一部)

- ・ 今後、エニーステーションが出来たら積極的に活用したいと感じた (エニー生 / H.K.)
- ・ エニーが始まった理由など、知らなかった情報があり、さらに将来のエニーの発展が予期されるような報告でワクワクした (エニー生 / 藤野 浩明)

# Cross Leadership 大交流会



## 感想(一部)

- 様々な役職・職種・業界の人たちと、採用とは関係なく交流できる機会は貴重だと改めて実感した(エニー生 / N.L.)
- 支援したエニー生とお話し、素敵な機会となっていたことを知れてよかった(エニーメイト / N.H.)
- 活力ある20代との交流をもっと楽しみたいと感じた。彼らが活躍できるような社会が必要だと実感した(エニーメイト / N.D.)
- 普段出会えないような経営者この機会ならではの方とお話しでき、新しい視点や知見を得られました(エニー生 / 藤野 浩明)
- 毎度交流に参加していて感じているのだが、ほかのメンバーとの繋がりを構築する絶好のチャンスであり、話ができる機会であり、とても有意義(エニー生 / H.K.)
- 様々な方とお話することができ、とても充実した良い時間でした。もう少し交流の時間は長く欲しかったが、それでも十分な収穫を得られた最高の機会でした(エニー生 / O.S.)
- 普段関われないようなエニーメイトの皆様とお話できたことは、自分にとってとても有意義でした(エニー生 / I.H.)
- 様々な方とお話することができ、とても充実した良い時間でした。もう少し交流の時間は長く欲しかったが、それでも十分な収穫を得られた最高の機会でした(エニーメイト / 高橋 洋子)
- 時間が短かった(エニーメイト / 小山 典孝)
- 属性が違うさまざまな方とお話しできて、自分の視点が広がった(エニー生 / 河内 僚太郎)

# エニ一生への印象

- ・ インターナショナルに活躍している人が多く、コミュニケーション能力も高い。また、自分の考えを持っており、相手の意見も尊重できる印象
- ・ 快活で軸がある
- ・ キラキラしてますね
- ・ 向上心、好奇心の塊の方が多くいる。話せば話すほど、面白みが多く出て来そうな感じがしました
- ・ 皆さん、真っ直ぐに、将来に向けて歩みを続けるひたむきさと力強さを感じ、今後も精一杯支援していきたいと決意を新たにしました ✨
- ・ 個々がそれぞれの思いをしっかり持っている
- ・ 皆様の自信に溢れ輝いている姿を見て、我々の世代も改めて輝く魅力を再構築する必要性があると認識しました。エニ一生の皆様へ、そして運営される御社にエールを送ります
- ・ 迷い悩みながらも自分らしさを大切に、様々なことにチャレンジしている印象でした
- ・ かなりアクティブかつ面白くてどこかエキセントリックな考えや価値観を持っている
- ・ 志の高さ、積極的な行動力はたいしたものだと思います
- ・ 多様性に富んでいると思います。皆が他の人をリスペクトできるという前提があり、すごいと思います
- ・ 皆さん活発で良い人が多いなと思いました。また、何かしらの意思ややりたいことがあるのも素敵だなと思います
- ・ 一様に前向きで「何とか現状を打開したい」「成長したい」という意欲が伝わってきて気持ち良かった。また素直な方が多い印象だった

# 参加者の声

- ・ 称賛の文化が形作られていて、素敵なコミュニティだと思います
- ・ 刺激が減って来ていた日常の中で、新たな刺激を受けることができ、挑戦の火を灯す機会となりました
- ・ これからの世代が自分らしく生きていくことに向けての心の叫びが、ここにある。もっと叫ぼう。もっと届けよう。もっと、もっと
- ・ とにかく、エニ一生のみなさまからエネルギーをいただきました！みなさんキラキラしているのを見て、日本の未来に希望を持ってました。次回のお二人もとても上手でしたね。運営の皆様を含め、ありがとうございました。お疲れ様でした！
- ・ 「BORDER/BORDERLESS」という難しいテーマに挑み、運営各位も参加者も一丸となり あちこちで意見交換やシェアリングが行われすばらしいイベントでした。今後も応援しています
- ・ 御社の存在価値は、既に認知され注目されていると思いますが、ゲストとして初参加したことで初めて認知する方々への事前アプローチおよび拡散の連鎖に期待します
- ・ 次回はぜひ、集合写真撮影時の掛け声「エニ———！😊」を！



# 協賛

下記 QR コードを読み取って頂くと、各協賛企業の公式サイトをご覧ください（エニー公式サイト）

## ■ 会場協賛 ■



【 第5回エニーミートアップ会場 】

KDDI株式会社 / KDDI DIGITAL GATE

東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング西棟3階



## ■ フード・ドリンク協賛 ■



日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社  
神奈川県横浜市西区  
みなとみらい4丁目4番5号  
横浜アイマークプレイス 5F・6F  
<https://japan.kfc.co.jp>



UMAMI COLA 株式会社  
東京都港区南青山2-2-15  
<https://umamicola.com>



# 会場の様子・写真ライブラリー









## 登壇者・運営スタッフ



(左上から) 糸井 / 佐藤 栄希 (大阪大学大学院 工学研究科 修士1年) / 徳永 宗太郎 (東京大学 工学部 4年) / 白 逸朝 (筑波大学卒 社会人2年目) / 藤野 浩明 (慶應義塾大学 文学部 4年) / 須貝 太一 (ネバダ大学卒 ロースクール入学準備中)

(中段左から) 齊藤 一輝 (国際教養大学 国際教養学部 2年) / 笹川 夏希 (産業能率大学 経営学部 4年) / 高橋 玉緒 (筑波大学 人文・文化学 3年) / 宮澤 優輝 (一橋大学大学院 経営管理 修士1年) / 菅谷

(下段左から) 原 菜那子 (明治大学 経営学 4年) / 沢口 柊太 (北海学園大学 経営学部 2年) / 石堂 / 山本 悠太 (慶應義塾大学 商学部 2年) / 土屋 優汰 (成城大学 経済学部 2年)

NEXT MEETUP  
2025.02.21

